



Nagoya GRAMPUS

名古屋グランパス ワイズメンズ クラブ

NAGOYA YMCA5-2 KAMIMAEZU2 NAKAKU NAGOYA 460 JAPAN

国際会長標語 “Let Your Light Shine” [輝かせ あなたの光を]
 アジア会長標語 “Love your neighbors as yourself” [自分を愛するようにあなたの隣人を愛せよ]
 西日本区理事標語 “Be Soul-Mates” -to work hand in hand [皆な仲間]働こう!!
 中部部長標語 [いざたて中部!! 今がその時!!]
 クラブ会長標語 “Lets move for future of the Earth !!”[地球の未来のために行動しよう]

2005年2月号

— <今月の聖句> —

兄弟愛をもって互いに愛し、尊敬をもって互いに相手を優れた者と思いなさい。

ローマの信徒への手紙 12章10節

グランパスホームページ <http://www5.ocn.ne.jp/~ysmen/>

2005年2月例会ご案内

◎第一例会

と き : 2月3日(木)
 と ころ : 名古屋YMCA
 時 間 : 19:00~
 内 容 : 総 会

クラブの次期体制等について議論したいと思います。

◎第二例会

と き : 2月17日(木)
 と ころ : 名古屋YMCA
 時 間 : 19:00~
 グランパス備品等の整理を行いますので欠席のないようお願いします。

◎その他

1. 東西日本区交流会

と き : 2月19日(土)~20日(日)
 と ころ : 東山荘

1月例会	例 会 出 席 状 況				B Fポイント		クラブファンド(1月)	
	在 席 者	16名	第 1 例 会	13名	当 月・切 手		ニコBOXノート	
	例会出席者	13名	第 2 例 会	7名	当 月・現 金		感 謝 フォンド	
当月出席率	81%	部 会 他	2名	累 計		累 計		

“TO ACKNOWLEDGE THE DUTY THAT ACCOMPANIES EVERY RIGHT”

=強い義務感を持つ。義務はすべての権利を伴う=

1月第一例会報告

第6回名古屋地区ワイズ合同例会



今年度の合同例会が1月28日に6時半よりアパホテルで開催されました。

在名5クラブの各諸兄が和気あいあいとはじまりました。一年に一度合える諸兄の顔を合わせることが楽しみなことありますが、相変わらず皆さんの笑顔が一年のワイズの元気の源かな？と思います。ゲストの紹介、いろいろな方も出席されワイズの活動を少しでも理解されればと思いますが？。



今年の卓話は中澤さんの「相撲部屋のおかみさん奮戦記」。相撲というのは、我々には非常に身近な国技で話ありますが、本当の中身はなかなか知らないことが多く、大変興味を起きました。関取のおかみさんとはどんな女性かな？野次馬としてはこれも興味があります。相撲部屋の中からの生活の様子がわかりやすく紹介され、相撲部屋のしきたりなど、知らないことが色々を知ることができ、今年の夏場所は違ったふれかたが出来るかと思っています。

第二部の懇親会は立食式で始まり、諸兄との近況などあちらこちらで賑やかに話し声が聞こ

えて、合同例会の意義が発揮されています。



楽しくプログラムも進み、頭の体操での問題は日頃の頭の固さを思い知らされました。

西日本区大会の名古屋での開催を中部で成功させるよう協力をお願いをして閉会となりました。

早川 政人



著書にサインする中澤さん

卓話要旨

中澤さんは学生時代を名古屋YMCAのリーダーとして活動され、大学を創業したころ現中村親方の富士桜閣にお会いになり、妙にウマが合ったお二人は昭和50年5月に結婚。中澤さんは相撲の世界に入ることとなりました。

昭和61年に中村部屋が創設され、稽古場のある同じ家屋の中で力士たちと生活し、彼らを養成していくことが大きな課題となりました。

そして相撲部屋を取り仕切る多忙な中、大学院に進まれ、そこで研究された論文を基に現著書が完成しました。

相撲界の年間スケジュール、お相撲さんの階級、給与体系等々これまで非常に見えにくかった世界のことが少し理解できたかのようです。

この他相撲の歴史等のお話もありましたが、紙面に制限もありますので後は中沢さんの本を読んで相撲界の理解を深めてください。
著作名：相撲部屋24時間 おかみさん奮闘記
出版社：講談社 価格：920円



川村中部部長（右）と小林次期中部部長（左）



司会役の松原会長

第二例会報告



日時：1月20日(木) 19:00~21:00
場所：名古屋YMCA305号室
出席：三井、服部、阿部、荒川、坂倉、早川
吉田正、坂口、坂野、徳田、松原

諸連絡

- ・ クリスマスキャロル（12/23）には、100名ほどの参加がありました。経費はオークションと支援金でまかなうことが出来ました。来年以降問題ありますが、ひとまず有難うございました。
- ・ 中部ホームページへのアクセスキャンペーンはクラブとして100%達成しました。
- ・ スマトラ沖地震募金（1/8）は50名参加で15,3000円集まりました。

議事

1. 合同例会について 1・28(金)
参加の確認と、名札・バナー・受付等の確認
2. INCHON SANDOL クラブとの交流について
アジア大会（8/26~28）の時に、ホームステイと締結10周年行事を行なうことを連絡する。
3. 横浜とつかクラブとの交流について
東西交流会を利用して意見交換してはどうか？先方と連絡を取り合うこと。
4. 活動方針について
中部として、クラブとしての活動方針を再確認しました。
5. その他
(1) 東西日本区交流会について（2・19, 20）
1/31までに参加申込等を行なう。出来れば、とつかクラブとの交流を行なう。
(2) 名古屋YMCAの会館移転について
2月の第2例会にて、クラブの備品等の整理を行なう。
6. 今後の日程確認を行なった。
7. 環境問題については、クラブ方針ですが、ブリテン等を通じて会長が色々と発表していくこととする。

ファミリープログラム



爺ヶ岳スキー

年も改まった1月8日朝5時に自宅を出発、爺ヶ岳スキー場めざしてルンルンです。でも今回坂倉家は、長男の部活の都合もあり私と子ども二人の合計3名だけの参加となりました。天気は快晴、東名・中央道とも渋滞することなく、おにぎり食べながら順調に走ることが出来、9時前に爺ヶ岳ロッジに到着。到着後あとから来る坂口号に連絡すると、坂口号の車内はすでに運転手を除き酒盛りの真っ最中とのこと。坂口号はどうなっているの？！

我家は早速スキーの準備をし、鹿島槍スキー場へ。年末は『今シーズンの雪はどうなるの？』と心配していましたが、雪もたっぷりあり、思ったよりスキー場はすいていて快適快適。11時には、おなかもすき、足もくたびれてきて昼食です。レストランも混雑してなくて『なあ〜だ。鹿島槍も最近はひまなんだあ。』と思って食事後、外は寒いしビールのこちよ酔いもありレストランでボ〜としているとアツと言う間に空席はなくなり、人だらけでした。我家の子どもたちは、ナイトスキーをする予定なので早めにロッジに帰ってきて、これも楽しみにしていたロッジに置いてあるマンガの読書です。



夕方、グランパスのメンバーがスキーから帰ってきて、そのまま大町温泉ツアーに出かけるのを見送り、ナイトスキーに備えていると、現在爺ヶ岳スキー場はナイトは営業していないとロッジの人から教わり、アレッ、こんなことなら温泉にいくんだったあ〜。

夕食後、子どもたちをお風呂に行かせ、いよいよ宴会の始まりです。ただ坂口号で来たメンバーは朝からず〜と宴会続きのようです。私は11時ごろ子どもたちを寝かせる為部屋にもどりベットに入ると今朝早起きしたこともありそのまま寝てしまいました。その後宴会はYMC Aの思いを語る場となったようです。

そんなこんなで今回のスキーツアーも吉田正メンの手配のもと、楽しく過ごすことが出来ました。感謝。

坂倉 洋



定番の「りんどう」の蕎麦は今年も健在でした。今年はグランパス創設者の一人、秋重氏の参加もあり充実した内容となりました。ただ、大きな声では言えませんが、秋重氏は小さなカバン一つでの参加。目的は温泉と美味しいお酒だけだったようです。



暖冬の影響で積雪不足の心配もありましたが、年末豪雪のおかげでスキーは十分に楽しめました。リフト待ちなしで最高の爺ヶ岳です。



温泉の後の足エステで身も心もリフレッシュ。
温泉好きのメンバーにはたまらないグッズです。
これでお酒が美味しく飲めることでしょう。



今年も殆どのメンバーは1泊2日ですが荒川家だけ2泊3日です。1泊目は大宴会、2泊目は静夜と霧囲気の違うファミリースキーを楽しむことができました。



最年長スキーヤーと最年少スキーヤーです。「スキーは年齢を問わず楽しめる」の証拠写真です。



今では常連の森さん（トトミさん）御一家。コメント達は会うたびに大きくなっています。子供の成長は早いものです。



毎年同じウェアの筆者とコメント。しかし今年はスキーとブーツが違います。技術の進歩は凄まじく、以前のスキーより一段と滑りに力を要しません。カーブがとても楽になりました。これならシニアになってもスキーができます。



昨年末にカメラを変えました。そのカメラでマルハンロッジを撮ってみました。上は夜の食堂です。下は玄関のネオンともみの木に配されたイルミネーションそして街灯の光だけで霧囲気のいい写真が撮れました。もちろん三脚は必要ですがデジカメ用レンズの性能もよくなり、受光CCDと相性が合えば銀鉛カメラ以上の絵が撮れるようになりました。



荒川恭次